

全視情協通信 / な い - ぶ	1997/8/20
<b>NAIIV</b>	<b>No. 14</b>
発行 発行責任者 川越 利信	
<b>全国視覚障害者情報提供施設協議会(全視情協)</b> (社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会 情報サービス部会)	
事務局 〒550 大阪市西区江戸堀 1 - 13 - 2 日本ライトハウス盲人情報文化センター内 Tel. 06 - 441 - 0015 Fax. 06 - 441 - 0039 E-mail: HBD00035@niftyserve.or.jp	

————— 主 な 内 容 —————

- 全視情協帯広大会にむけて (川越利信) ..... 1
- 全国点字図書館実態調査 14 年を振り返って  
(全視情協サービス委員会) ..... 4
- D A I S Y 国際評価総括会議 短報 (河村 宏) ..... 17
- 【施設紹介】石川県視覚障害者情報文化センター ..... 18

## 全視情協 帯広大会にむけて

会長 川越 利信

### 1 サービス状況概観

視覚障害者への情報サービスを充実させ、十分に読書が楽しめる環境を整備するためには、サービス委員会の活動を前面に押し出そう、というかけ声は、全視情協内部ではずいぶん早くからあった。

ところが、それぞれの視覚障害者情報提供施設(点字図書館)における製作を中心とする業務体制は、そう容易には変動しない。サービスを中心に業務展開を図りたいと思いつつも、製作にほとんどのエネルギーを費やさざるを得ないというのが、視覚障害者情報提供施設(点字図書館)の現実である。いうまでもなく、点字なり、音声なりの提供すべき情報(資料)を用意(製作)しなければ、サービスのしようもないからである。

こうした現実の中で全視情協は、サービス委員会を常設委員会として位置づけ、サービス充実の方策を模索し続けている。サービス委員会のメンバーは全国の加盟施設から選抜され、構成されている。委員各位は、多忙な職務のかたわら、委員会活動を続けている。

サービス委員会の活動の中心は、視覚障害者情報提供施設（点字図書館）の実態調査で、14年間にわたって継続されている。この全国点字図書館実態調査『日本の点字図書館』は、例えば表記の工夫などの課題は持ちつつも、視覚障害者情報提供施設（点字図書館）の実状を把握するのに重要な役割を果たしてきた。

来る9月25、26日の帯広大会では、視覚障害者への情報提供施設のあり方や役割について討論することになっている。

一方、いよいよ高度情報化社会にのみ込まれていく。社会の情報環境は激変している。この激変していく情報環境に、私たちも対応していかなければならない。高度情報化社会への移行に伴い、全視情協のサービスも新たなる展開を迫られている。

これらのことを念頭において、サービス委員会で調査活動を総括していただいた。今後の視覚障害者情報提供施設のあり方を考える際の有効な参考資料である。

## 2 来るぞ！デジタル録音図書の時代

デジタル録音図書時代の担い手、デイジー（DAISY）システムと再生機（プレクストーク）の国際評価会議が、去る7月、東京で開催された。いよいよデジタル録音図書の時代がやってくる、そう実感させられる会議内容であった。（17ページに河村宏氏による簡単な報告が掲載されている。）

帯広大会では、デジタル録音図書の製作システムや機器に実際に触りながら学習ができるようにするために目下準備中である。

質問や疑問などがありましたら、9月10日頃までに、事務局までご連絡ください。

NAIIV第12号でもお知らせしましたように、全視情協 帯広大会は、JBS日本福祉放送による中継生放送が行われます。大会に直接参加できない方も各施設で大会の様態を知ることができます。

## 第23回 全国視覚障害者情報提供施設大会 日程

9月24日(水)	
13:00~17:00	運営委員会
9月25日(木)	
10:00~12:00	施設長会議
12:00~13:00	受付
13:00~13:40	開会式(開会の辞、歓迎の辞、オリエンテーション)
13:40~17:00	分科会 テーマ:視覚障害者情報ネットワーク・システム 第1分科会 点字情報 第2分科会 音声情報
17:00~18:00	休憩・チェックイン
18:00~20:00	夕食・懇親会
20:00~21:30	書誌データ管理システム学習会(自由参加)
9月26日(金)	
7:00~ 8:00	朝食
9:00~10:00	部会、各委員会、各ブロック活動状況、各分科会、 ワークショップ等の報告
10:00~10:10	休憩
10:10~12:00	フォーラム 「視覚障害者情報提供施設の役割・あり方」を考える
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	フォーラム 再開
15:00~15:20	閉会式(閉会あいさつ、次年度開催地あいさつ)
16:00~18:00	自主参加プログラム 技術入門講座 1 パソコン入門 2 マルチメディア入門
18:00~19:00	夕食
19:00~21:00	技術入門講座 再開

別刷りの資料「障害者の情報保障に関する研究」は、「『障害者に関する総合計画提言』作成事業中間報告会資料」として、日本障害者協議会が作成したものです。情報保障に関する中間報告の部分を抜粋しました。この報告は、高度情報社会における情報保障をさまざまな角度から検討しようというのですが、本会からも川越利信会長(日本ライトハウス盲人情報文化センター館長)、田中徹二副会長(日本点字図書館 館長)が参画しています。高度情報社会において、視覚障害者がバリア・フルとならないために、全視情協としても具体的な提言を行っていきたいと考えています。「視覚障害者情報提供施設」のあり方・役割を考える上での資料としても、ぜひご一読いただきたいと思います。

なお、今回の中間報告では表面化していませんが、最終報告には著作権の問題をクローズアップさせる予定です。

# 全国点字図書館実態調査14年を振り返って

全視情協サービス委員会

## はじめに

点字図書館に関する調査は、15年以前にはこのような全般にわたる実態調査は「点字図書館問題研究会」による報告書『サービス面からみた点字図書館の問題～点字図書館実態調査報告～』（1979・昭和54年）と『製作面からみた点字図書館の問題～点字図書館製作部門実態調査報告～』（1981・昭和56年）があるのみであった。

全国視覚障害者情報提供施設協議会（全視情協）は、1982（昭和57）年に「図書館サービス委員会」を常設委員会として発足させた。翌1983（昭和58）年に〔第1回全国点字図書館実態調査〕を開始、今年で第15回目を数える。以下、14年の実態を総括してみたい。なお、以下の数値等は1995（平成7）年度、回答館86館のそれを使用している。

### 1. 職員数

施設全体の職員数は約650人、うち視覚障害職員数は約90名（14%）

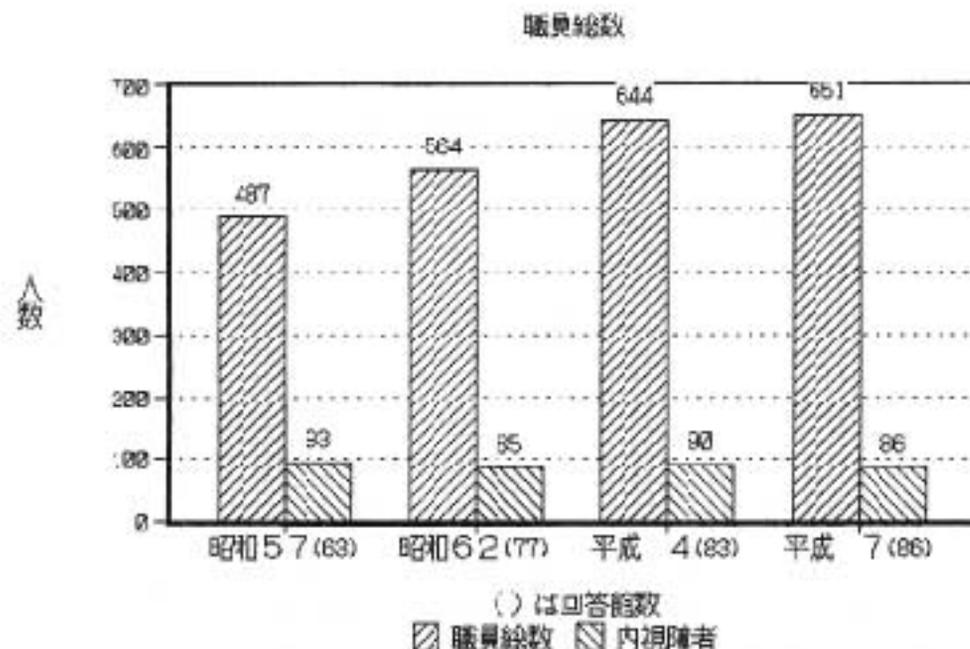
正規専任 430名（全体の66%）、うち視障職員55名（13%）

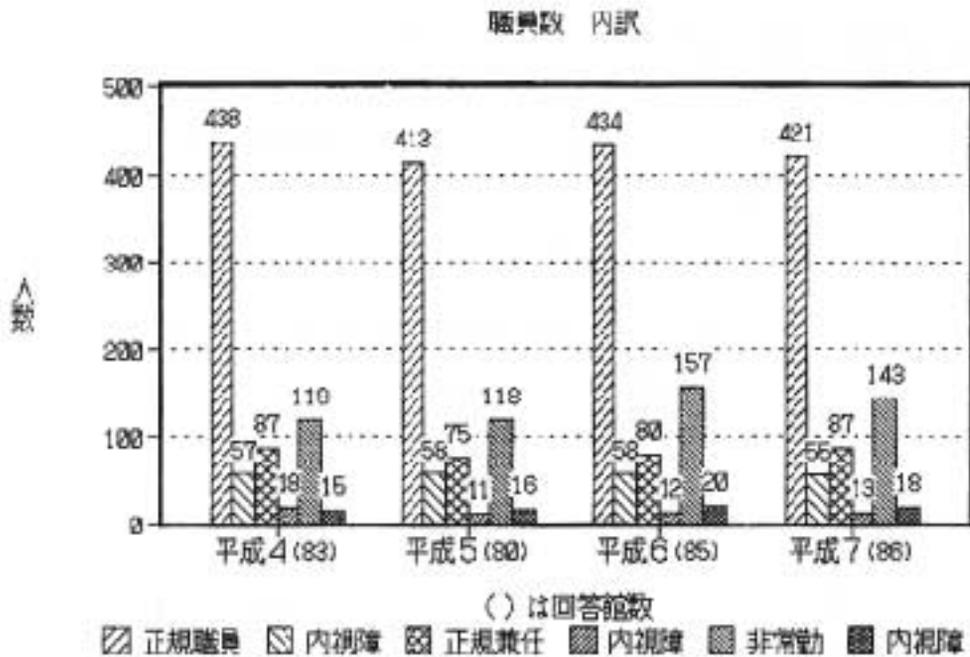
正規兼任 80名（全体の12%）、うち視障職員15名（19%）

非常勤 140名（全体の22%）、うち視障職員20名（14%）

全職員の34%が兼任・非常勤である。（視障職員0名が35館41%）

1館平均	正規専任	5.5名
	職員総数	7.6名
	司書（58館）	1.8名（司書総数106名）





2. 蔵書数

全蔵書数 点字図書 約43万タイトル(自館製作11.5万タイトル 27%)

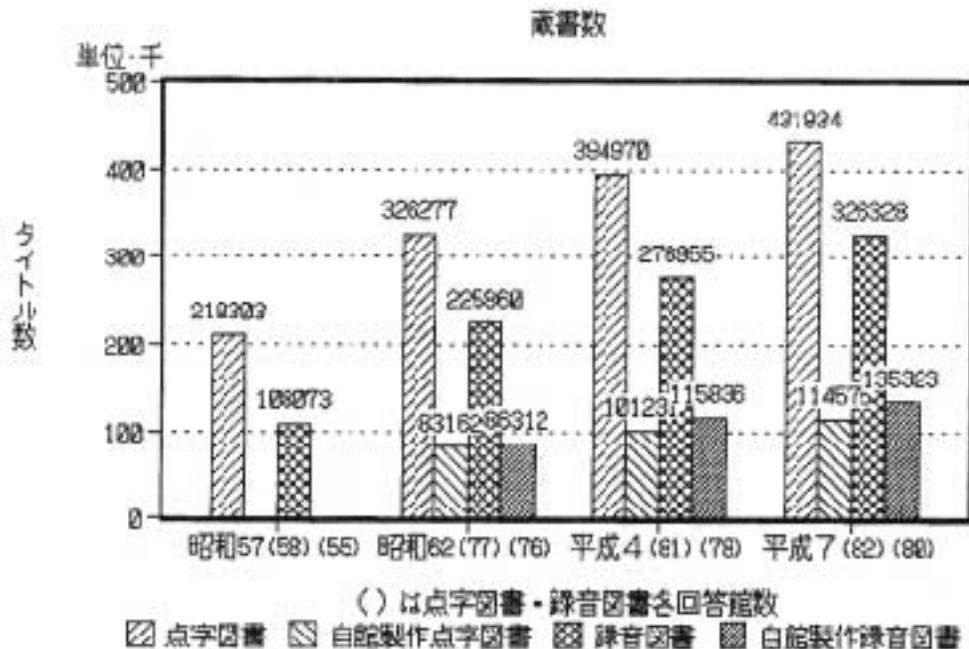
録音図書 約33万タイトル(自館製作13.5万タイトル 41%)

自館製作中の録音図書のおおよその重複製作率は33%とみられる。

故にその種類数は約9万タイトルと予想される。(重複率50%とのサンプル調査もあり)

1館平均 点字図書 約5,300タイトル

録音図書 約4,100タイトル

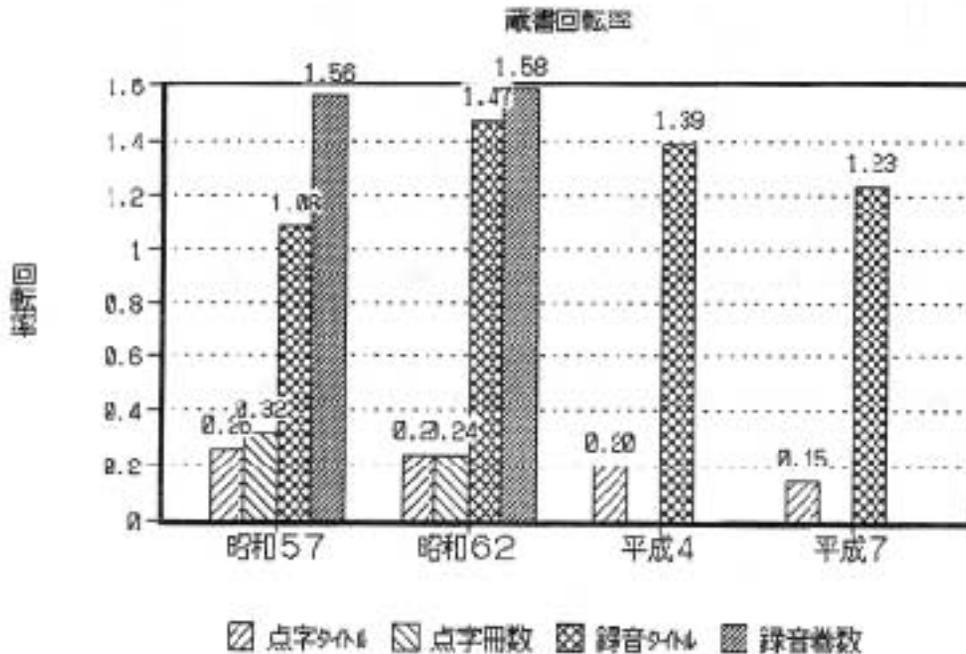


3. 蔵書回転率（図書の間年利用率）

点字図書 0.15（タイトル比 蔵書全体の15%しか利用がない）

録音図書 1.23（タイトル比 蔵書全体の123%利用がある）

古い図書の紹介・活用が必要（主題別目録・著者別目録、特集）



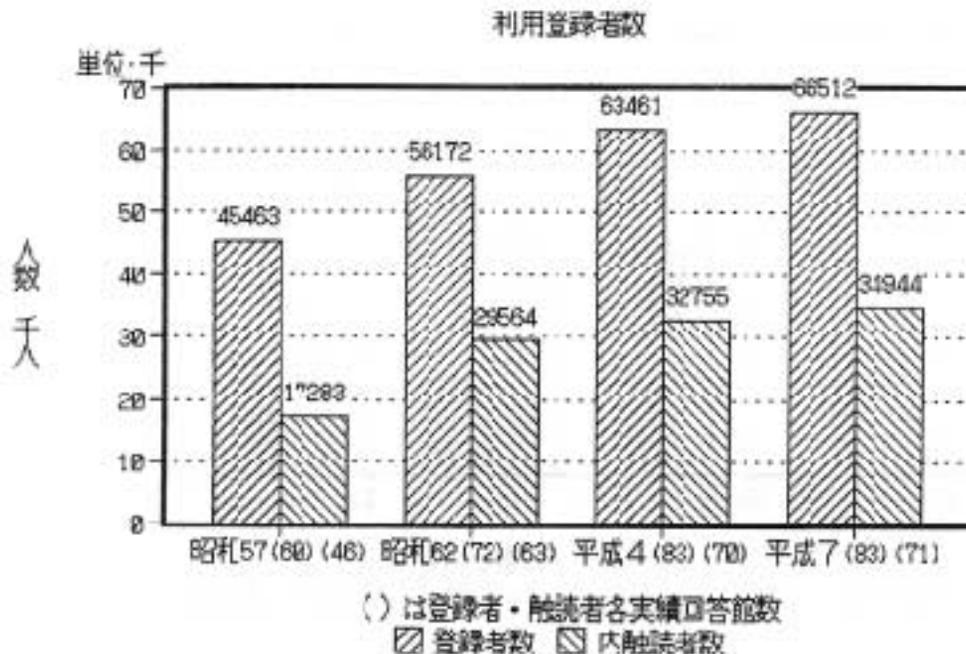
4. 利用登録者数

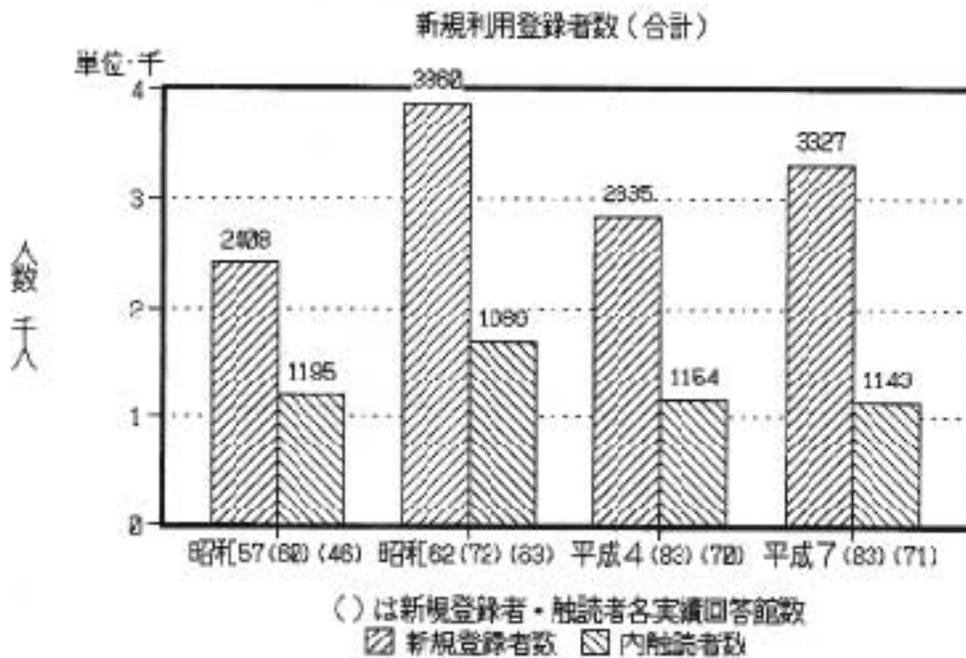
全体で約66,000名、うち点字触読者数 約35,000名（53%）

単年度登録者数 全体で約3,300名、うち点字触読者数 約1,100名（33%）

1館平均 登録者 約800名（うち点字触読者 約490名）

単年度 約40名（うち点字触読者 約16名）





5. 貸出数

点字図書 約 6.5万タイトル(実質貸出密度1.9はタイトル比)

録音図書 約 40万タイトル(実質貸出密度6.0はタイトル比)

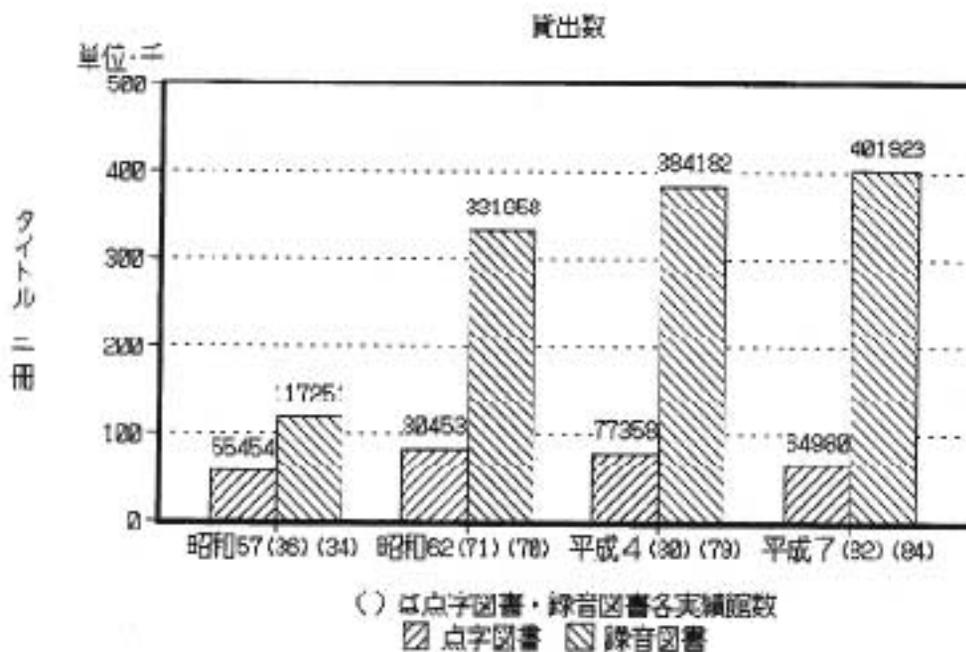
点字図書は減少傾向、点字雑誌は横ばい傾向

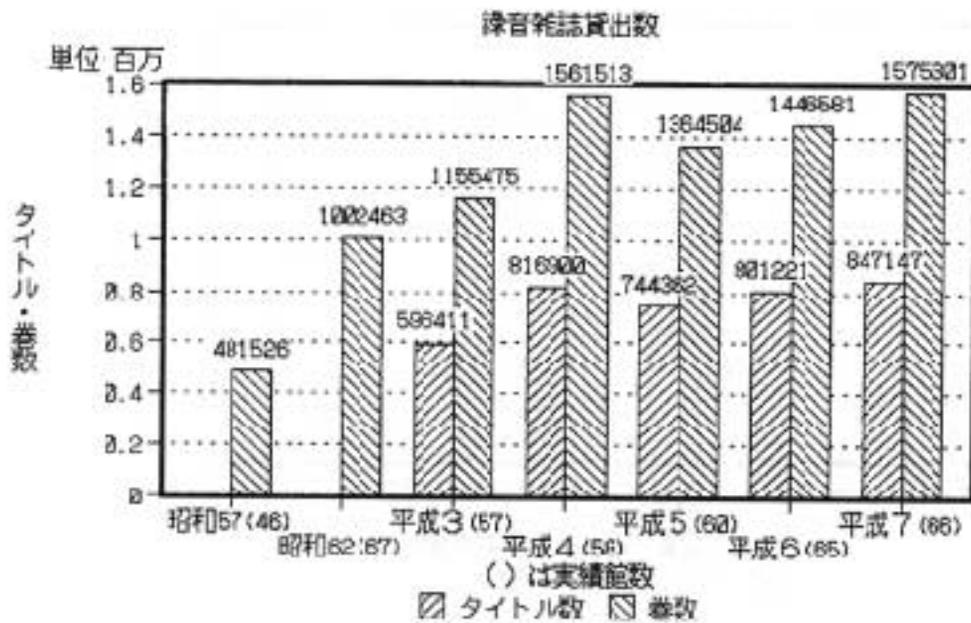
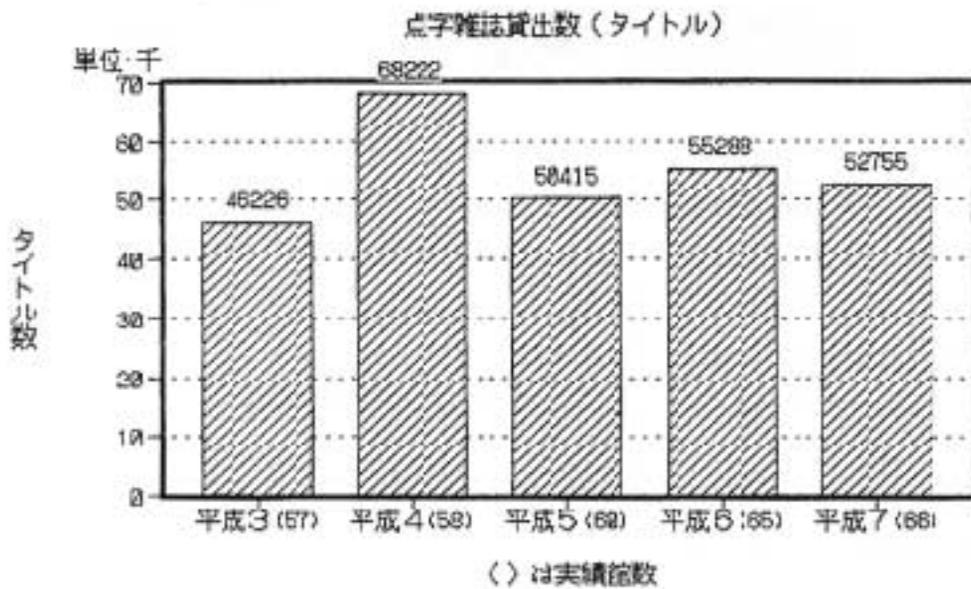
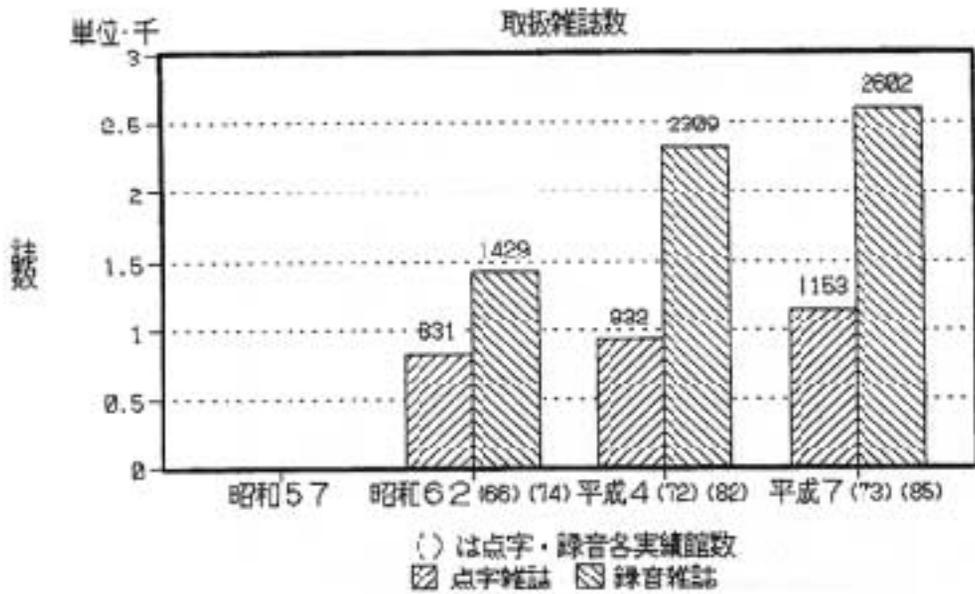
録音図書は増加傾向、録音雑誌も増加傾向にある。

(実質貸出密度とは、一人の読者が1年間に利用した平均図書数)

1館平均 点字図書 約 800タイトル

録音図書 約 4,800タイトル





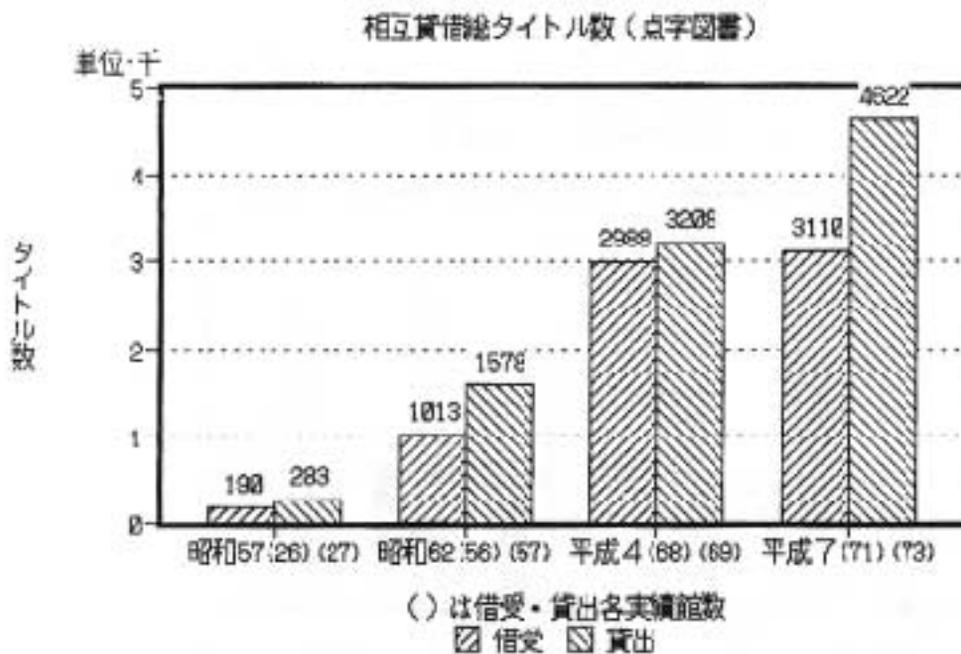
6. 資料の相互貸借

借り受け	点字図書	約 3,100タイトル	わずかに増加傾向
	点字雑誌	約 90タイトル	? (統計不備)
	録音図書	約 3.7万タイトル	大きく増加傾向
	録音雑誌	約 7.7万タイトル	横ばい傾向

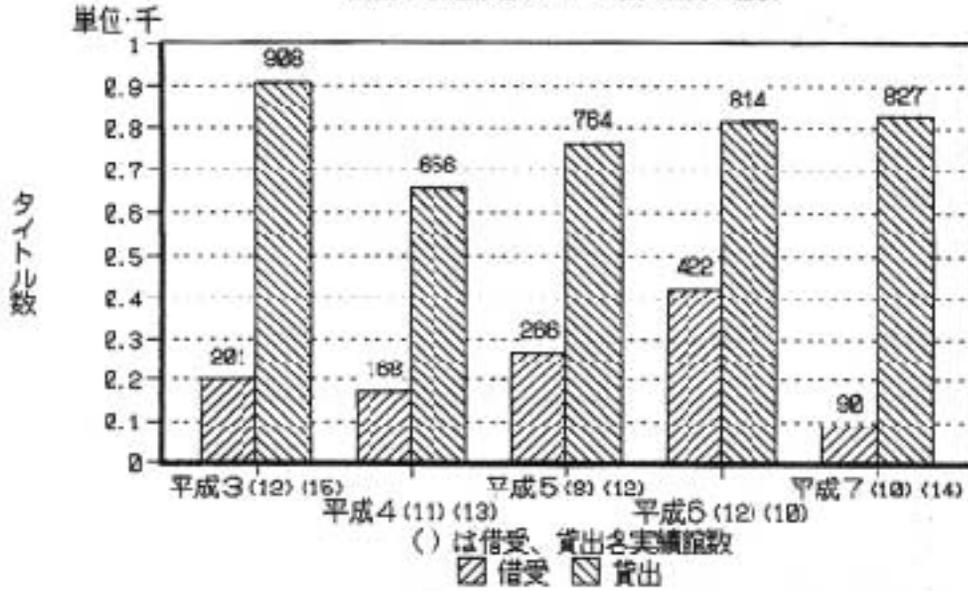
1館平均	点字図書	約 44タイトル	(実施館10館のみ)
	点字雑誌	約 9タイトル	
	録音図書	約 450タイトル	
	録音雑誌	約 1,200タイトル	

貸出	点字図書	約 4,600タイトル	増加傾向
	点字雑誌	約 800タイトル	横ばい傾向
	録音図書	約 4.4万タイトル	大きく増加傾向
	録音雑誌	約 4.0万タイトル	横ばい傾向

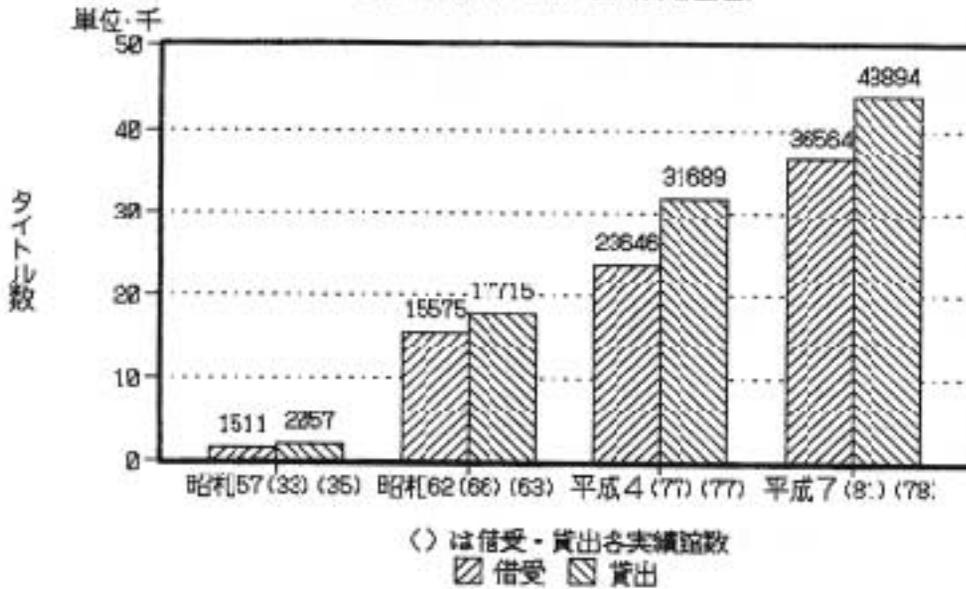
1館平均	点字図書	約 63タイトル
	点字雑誌	約 60タイトル
	録音図書	約 560タイトル
	録音雑誌	約 670タイトル



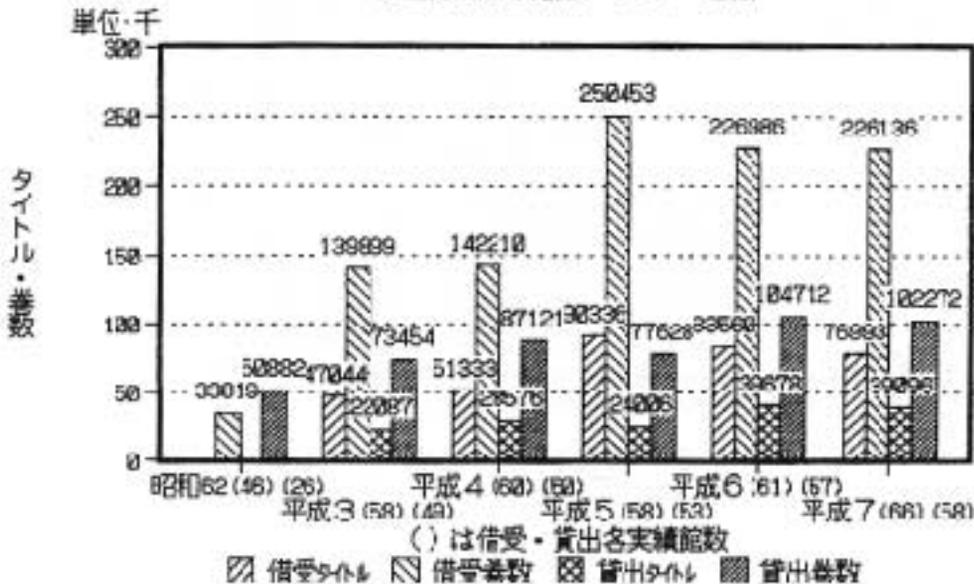
相互貸借雑誌総タイトル数（電子雑誌）

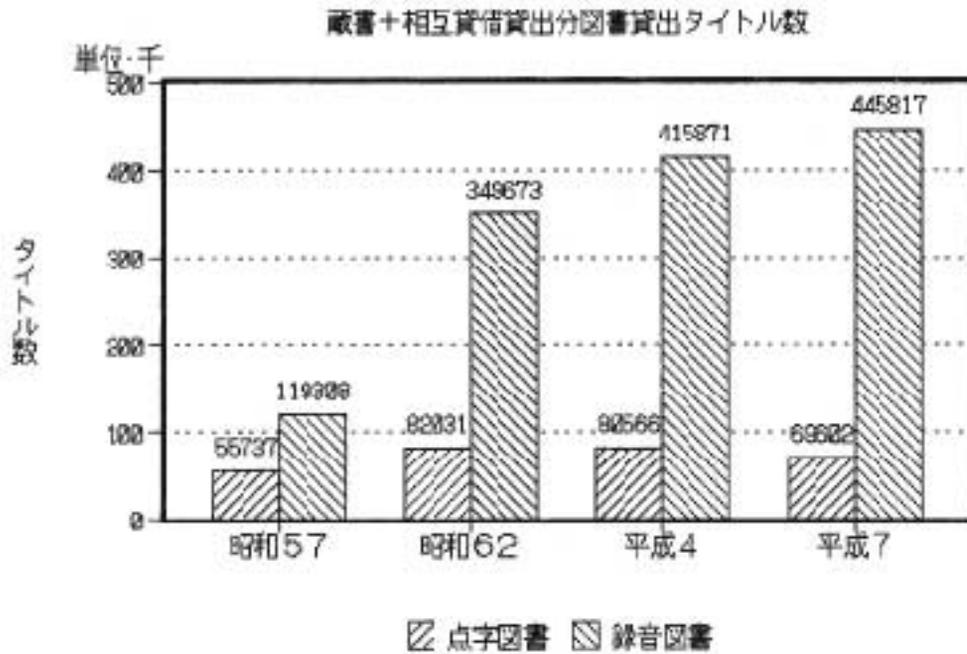


相互貸借録タイトル数（録音図書）



相互貸借録音雑誌タイトル・巻数

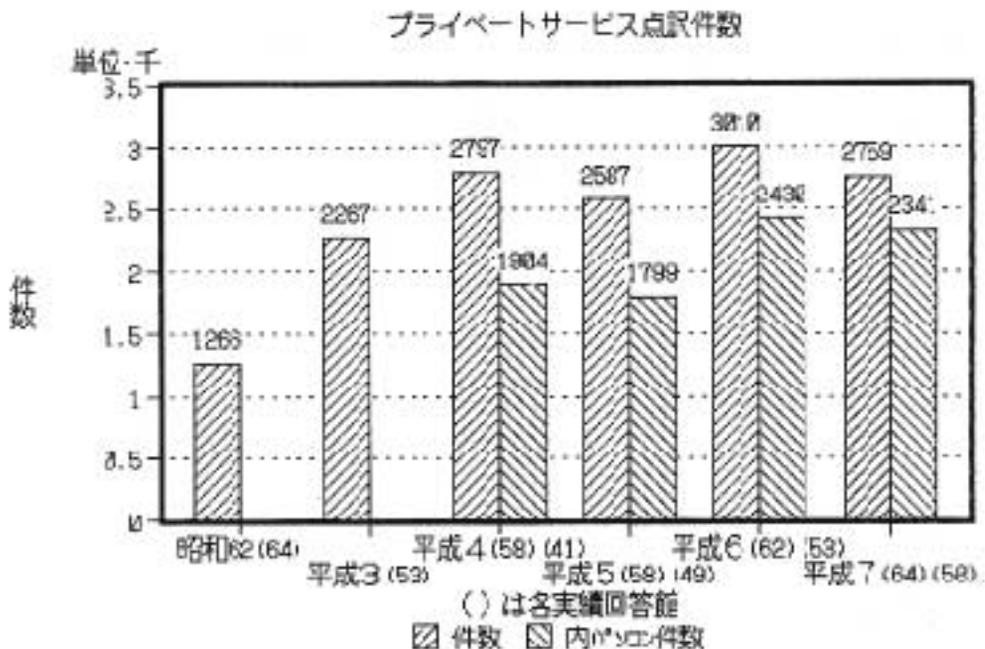


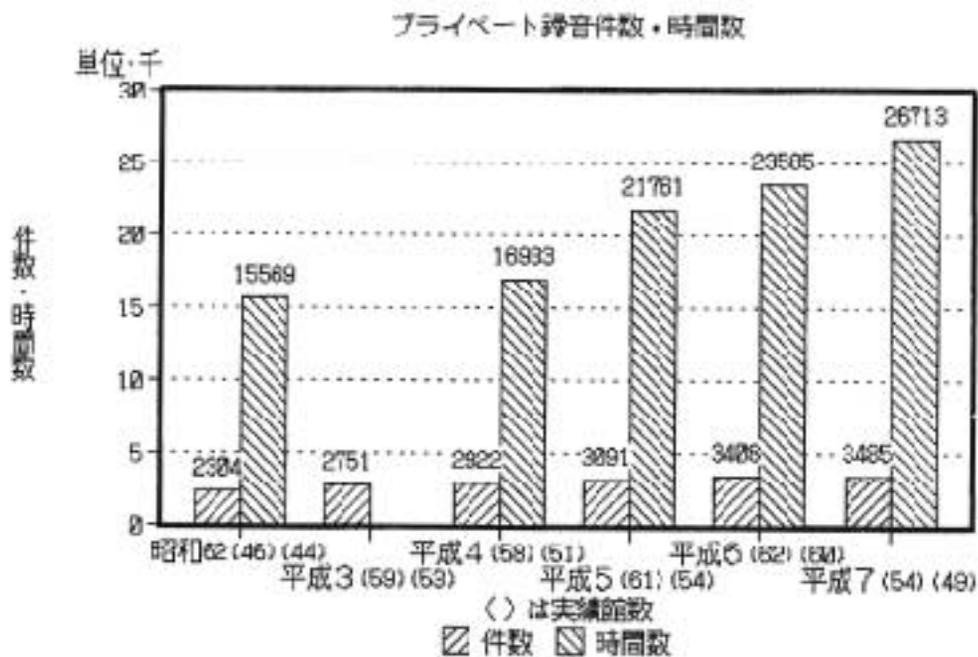
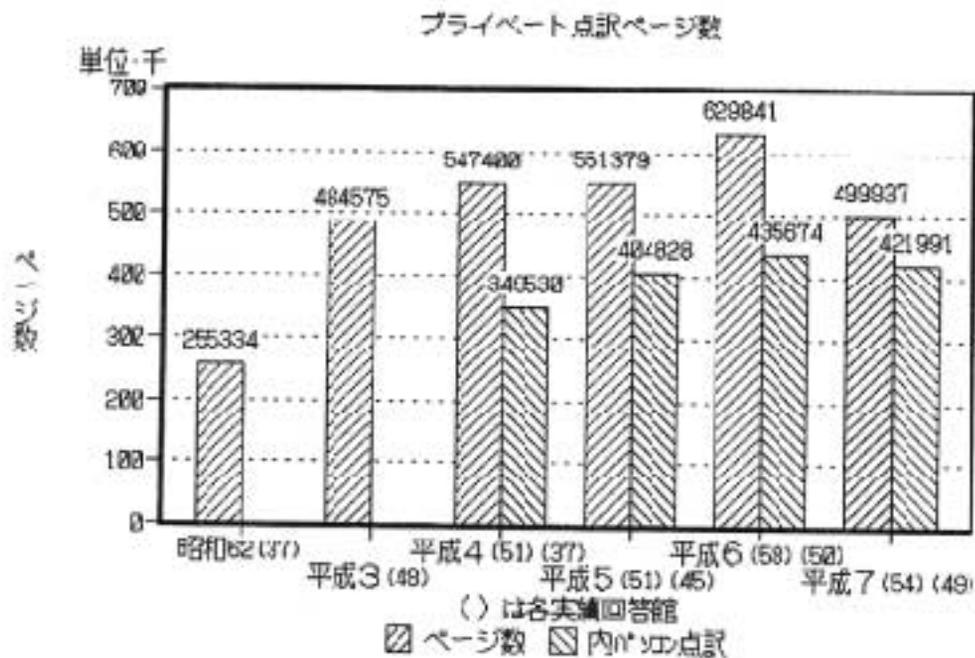


7. プライベートサービス (リクエストによる製作で蔵書にしない資料の提供)

点訳件数 約 2,800件 50万ページ  
 (うちパソコン点訳 2,300件 82%) 横ばい傾向  
 録音件数 約 3,500件 2.7万時間 少し増加傾向

1館平均 点訳件数 約 43件 9,300ページ  
 録音件数 約 54件 440時間

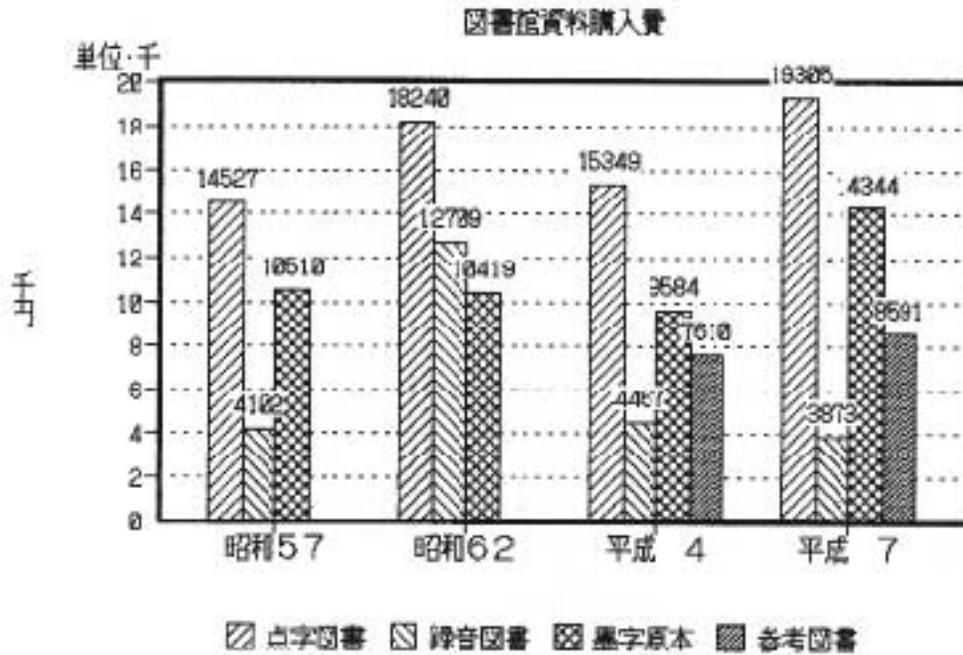




8. 図書館資料購入費

点字図書・雑誌	約 2,000万円	年によりばらつきあり
録音図書・雑誌	約 390万円	横ばい傾向
墨字原本	約 1,500万円	少し増加傾向
参考資料	約 860万円	少し増加傾向

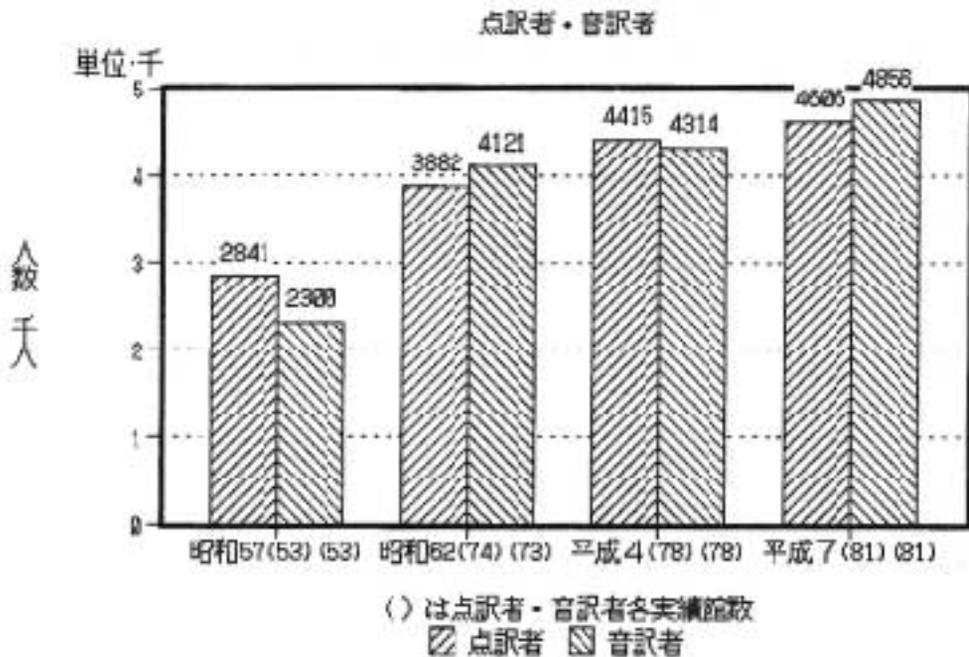
1館平均	点字図書・雑誌	約 30万円
	録音図書・雑誌	約 13万円
	墨字原本	約 20万円
	参考資料	約 14万円

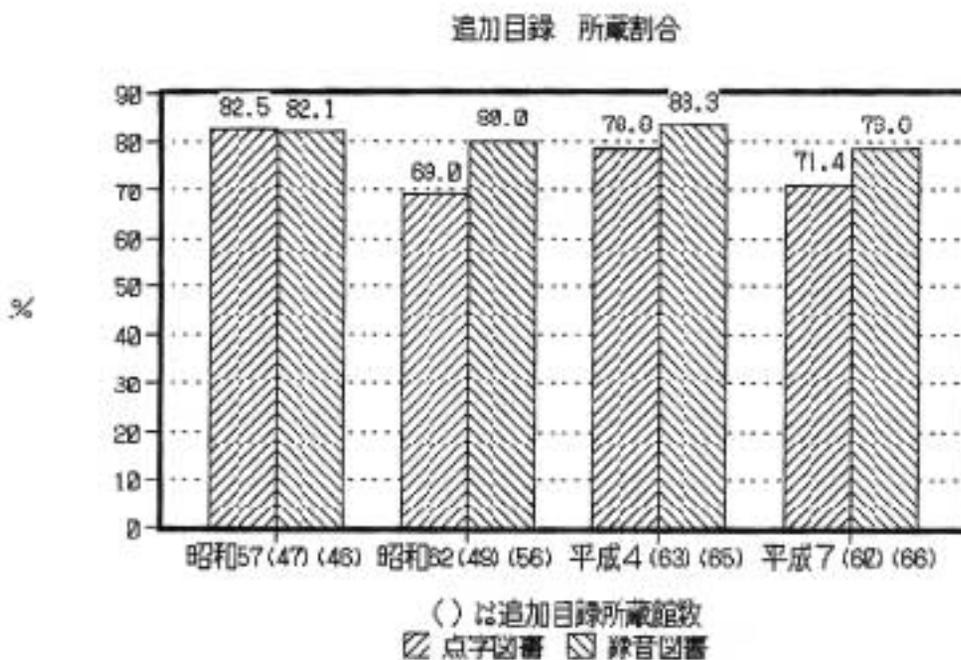
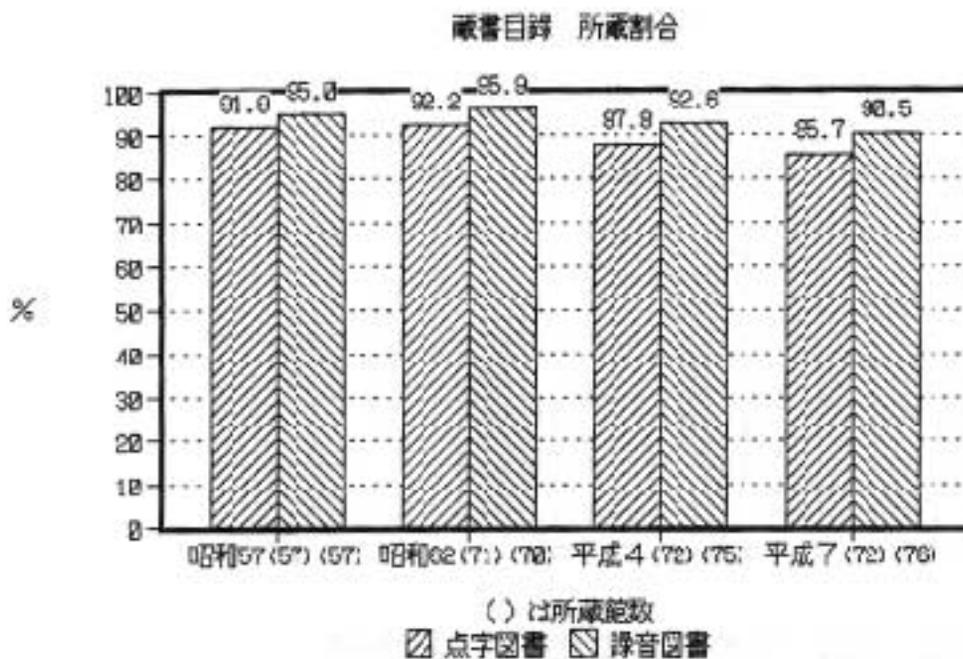


9. 図書館協力者

点訳者 約4,600名 わずかに増加傾向  
 点字校正者 約1,600名 わずかに増加傾向  
 音訳者 約4,900名 わずかに増加傾向  
 録音校正者 約1,700名 わずかに増加傾向

1館平均 点訳者 約57名  
 点字校正者 約20名  
 音訳者 約60名  
 録音校正者 約21名

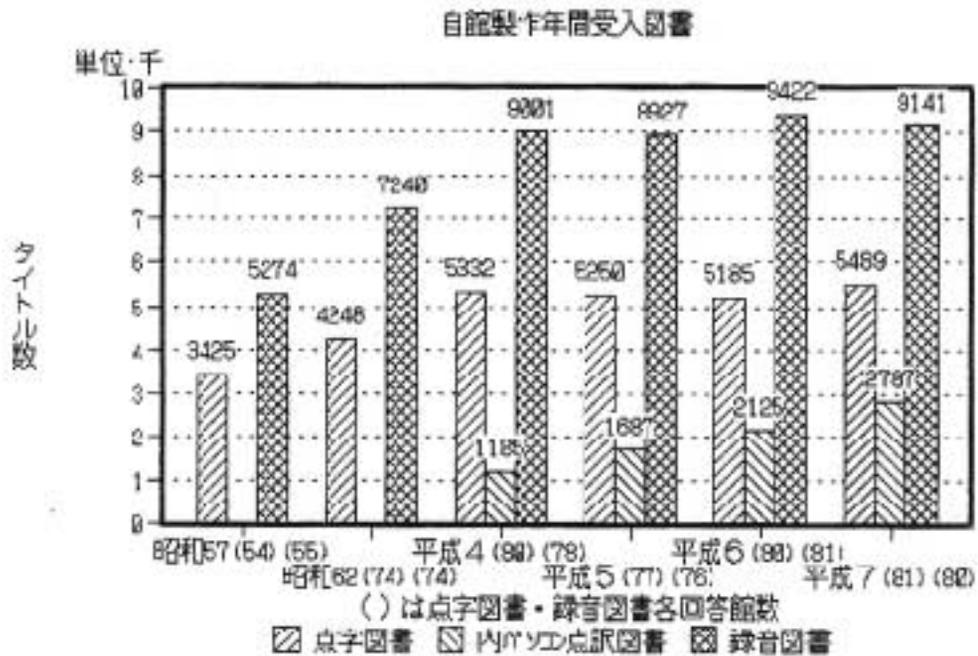




10. 製作

点字図書 約 5,500 タイトル (うちパソコン点訳 2,800 タイトル 51%)  
 録音図書 約 9,100 タイトル

1館平均 点字図書 約 68 タイトル  
 録音図書 約 114 タイトル



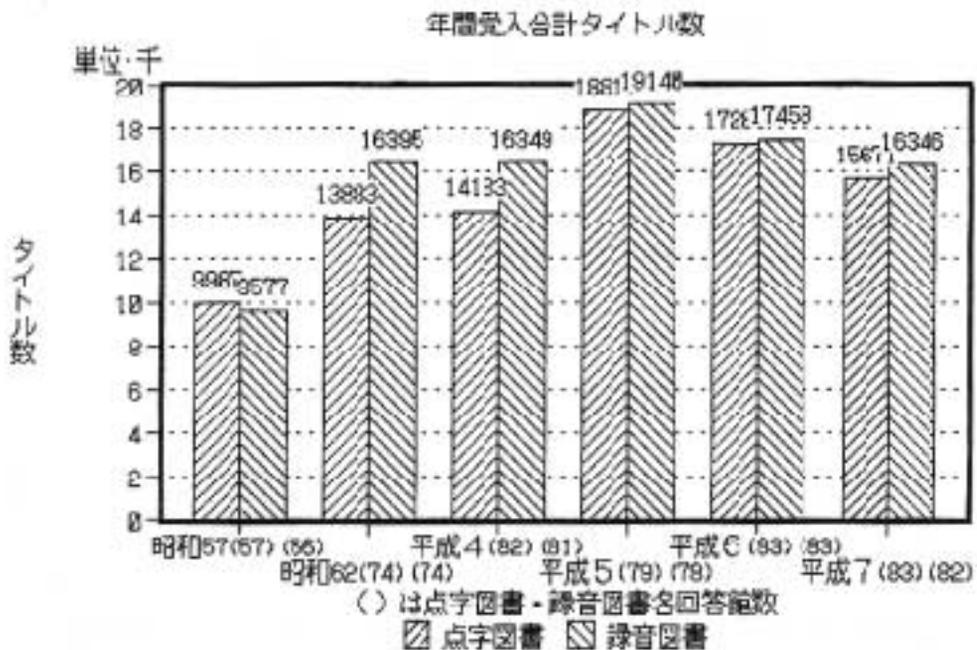
1.1 . 年間受入数

点字資料 約 1.6 万タイトル

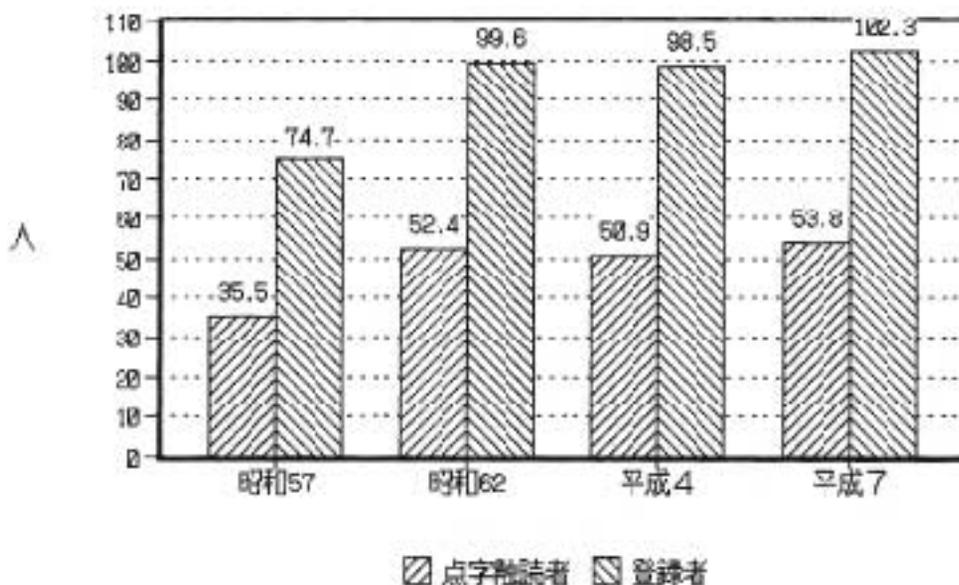
録音資料 約 1.6 万タイトル

1館平均 点字資料 約 190 タイトル

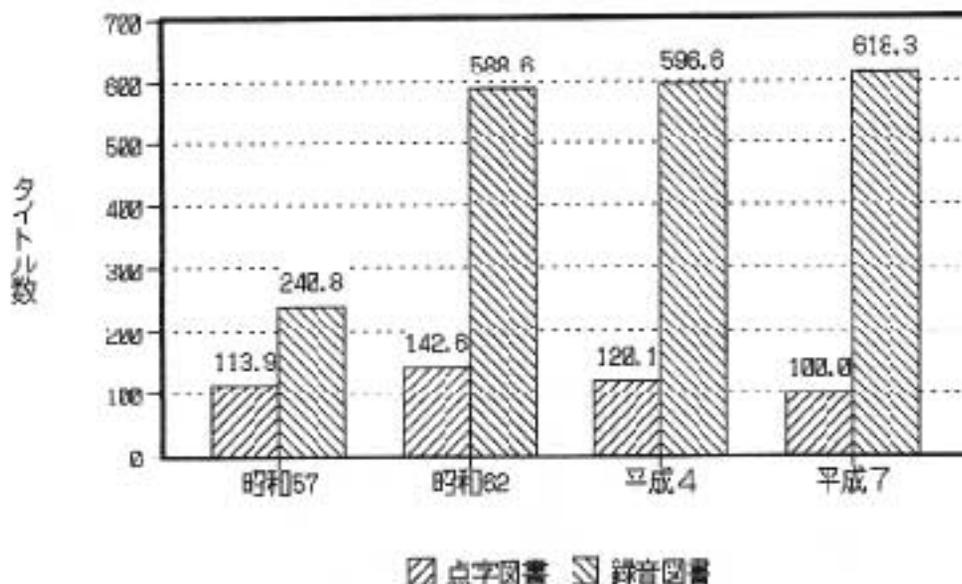
録音資料 約 200 タイトル



職員1人当たり奉仕登録者数



職員1人当たり貸出タイトル数



### おわりに

以上、1982（昭和57）年からほぼ5年ごとの推移と、一部過去4年間の推移と2種類の数値を見てきた。これらの数値を参考にしながら各館が実施してきた過去14年間の点字図書館活動を見直していただきたい。また、相互にそれぞれの点字図書館の全体の中での位置づけを確認しつつ、今後の情報サービスやネットワークを共に考えていきたい。

# DAISY 国際評価総括会議 短報

河村 宏  
(日本障害者リハビリテーション協会)

去る7月18 - 20日に戸山サンライズで開催されたDAISY国際評価総括会議の要点は下記の通りです。

1. DAISYが提案する新しい録音図書は広く支持を集めた。
2. プレクストークの取り扱いの解説には工夫が必要で、高齢者への説明でも2時間あれば足りるという意見と、2日かかっても難しかったという意見が出た。
3. DAISYの特長を生かした編集方法はまだ模索の段階で、コンソーシアムとしてガイドラインを設ける必要がある。
4. WBUおよびEBU共に、利用者に開発段階で評価を求めたことを非常に高く評価した。
5. 国際評価試験そのものがDAISYの評価を高め、国際標準化を強力に進める原動力となり、DAISYが次世代録音図書の事実上の国際標準としての地位を約束された。
6. リハ協がDAISYのインターネットへの展開を世界に先駆けて行うことが明らかにされた。普通の電話機でもアクセスできるこのDAISY対応インターネット・サーバーは来年4月に稼動開始予定で、それに合わせて視覚障害者対応WWWブラウザも無償で提供される予定である。
7. 国際評価会議の報告会議は広く公開され、その中で、視覚障害者が使えるDAISY録音システムの早急な開発と、プレクストークの早期市販およびその日常生活用具指定への強い要求が出された。また、肝心の日本での普及の道筋を早急に明らかにするようという要求が日本の発言者から相次いだ。
8. DAISYを国際的に普及するために更に評価試験を1年延長することが決定した。これにより、評価に参加できなかった多くの発展途上国にDAISYを広める道が開かれた。
9. 会議に先立って開かれたレセプションの席上で、足掛け4年にわたってDAISYと共にプレクストークの開発を続けたシナノケンシ・プレクスターの金子社長とそのスタッフの貢献に対して、DAISYコンソーシアムのヒルシェフェルド会長より公式の謝辞の表明と記念品の贈呈が行われた。

# 「ともに生きる 石川障害者プラン」

## 障害者の自立と社会参加の促進をめざす 石川県視覚障害者情報文化センター

石川県視覚障害者情報文化センター

所長 盛田 義弘

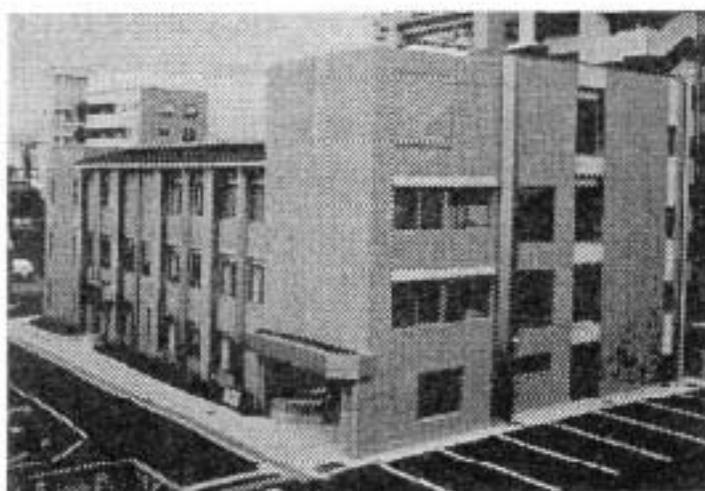
石川県では昨年2月、障害者の自立と社会参加の促進などを目標に10年計画とする新たな「ともに生きる石川障害者プラン」が策定され、発表された。この計画は、福祉の充実を図るために、施設では、35種類におよぶ施設新設ならびに増設整備が掲げられているが、その新設施設第1号が、今度完成し、落成した石川県視覚障害者情報文化センターである。

ところで石川県では、視覚障害者福祉施設というと、これまで石川県視覚障害者協会が設置運営する「点字図書館」と「視覚障害者会館」である。この2つの施設は別々に運営されていたため、利用者にとっては極めて不便で、1ヶ所に統合し、更にサービス拡充の声が以前から強く出されていた。これを受け、当協会では数年前から、視覚障害者の生活福祉と文化の向上を目標とした総合的福祉施設の設置を検討計画し、県当局などへ強く働きかけてきた。このことが、石川障害者プラン第1号施設に取り上げられる結果となった。

当センターは、高度情報・高齢社会を背景に、多様な情報提供と生きがい活動の拡充をめざすことは申すまでもないが、これからは更に視覚障害者の自立と地域における社会参加の促進をめざしていく。

新しいセンターは、JR金沢駅から徒歩15分のところ、金沢市芳斎1丁目にある県有地約820㎡の無償貸与を受けて、昨年8月に工事を着工した。建物は、鉄筋コンクリート造り3階建（一部4階建）、延べ面積1500㎡、総事業費4億5千万円をかけて今春3月に完成された。

この建物の特色は、徹底したバリアフリー対応の建築物で、「高



情報文化センター全景  
1階に本協会事務所があり、  
2階で図書館業務を実施

「高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」の石川県下第1号の認定を受けた（金沢市長より）。また、高度情報化に対処し、館内にLANを付設するなどインテリジェント・ビルとしたことである。建物の主な内容を、項目別に紹介すると次の通りである。

1 点字出版や受託印刷のための施設

点字出版編集室、  
印刷出版室

2 社会生活適応の訓練をする施設

社会適応・日常生活訓練室、  
歩行訓練スペース（屋上）、  
料理実習室

3 図書館情報等の情報提供のための施設

点字図書製作室、録音室、録音図書編集室、通信機器利用室、書庫、  
貸出発送室、閲覧室、対面朗読室、聴読室、情報サービス事務室

4 自立と社会参加を促進する施設

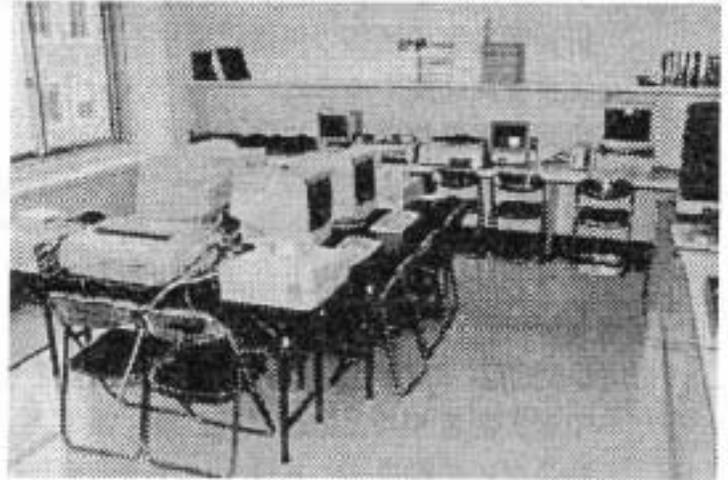
更生相談室、軽作業室、パソコンワープロ室

5 盲老人の生きがいと地域交流を促進する施設

創作活動室、第1・第2・第3交流室、第1・第2ロビー

6 ボランティア活動を促進する施設

ボランティア活動室



ワープロ・パソコン実習室

点字図書館に点字出版を主とした視覚障害者会館を併合し、新たに出発した情報文化センターは、設置目標達成のため、円滑かつ効率よい運営が行えるよう次のような組織および業務分掌とした。

1 課制を採用し、3課（経理課・情報サービス課・事業課）とした。

2 各課の主な業務分掌は次の通り

（経理課）

予算および決算に関すること  
会計事務全般に関すること  
財産管理に関すること  
建物の保守・防火等に関すること  
文書処理と保管に関すること  
盲人用具の斡旋に関すること  
職員の福利と厚生に関すること  
施設設備の利用貸出に関すること

(情報サービス課)

- 点字・録音図書ならびに雑誌の製作と購入に関すること
- 図書・雑誌の受け入れ、閲覧・貸出に関すること
- プライベート・レファレンスサービスに関すること
- 新刊図書等の情報の提供に関すること
- 読書普及に関すること
- 情報機器操作の研修に関すること
- 館内LANの保守管理、ネットワーク利用に関すること
- 情報サービス事業の企画立案に関すること
- ボランティアの育成と活用に関すること

(事業課)

- 受託印刷、点字出版計画・実施に関すること
- 中途失明者相談と生活訓練に関すること
- 生きがい活動事業、地域交流事業の計画・実施に関すること
- 文化事業の計画・実施に関すること
- デイサービス事業に関すること
- ガイドヘルパー派遣事業に関すること
- センター全般の情報提供に関すること

新センターでは、従来から行ってきた事業の整理統合とともに、新しい事業にも取り組む。今年から、更に拡充または新規に取り組み始めた事業を紹介すると、次の通りである。

(拡充する事業)

- 1 県広報や金沢市広報のみならず、議会だよりなど受託印刷事業の拡充を図る。
- 2 障害者に必要な生活情報の拡充のため、『石川県福祉ガイドブック』などを積極的に点字出版する。
- 3 中途失明者のための「点字教室」「墨字教室」「パソコン教室」の開講回数を増やす。(毎週2回定例に)
- 4 盲老人の生きがい活動を積極的に協力支援する。(例えば、川柳・ダンス・カラオケ・謡曲など)

(新規事業)

- 1 巡回生活訓練教室を開設する。  
県内5市町村(5会場)で開設する。  
内容は歩行訓練、パソコンの基礎、点訳(点字)の基礎。  
各会場で合計20回行う。

- 2 軽作業所を開所する。
  - 年間を通じて、毎週2～3回開所する。
  - 神社の協力で四手などの製作をする。
- 3 地域交流や国際交流を推進する。
  - ・「情文カレッジ」など専門講座を開講する。
    - 専門的な知識や技術・技能を習得するためのもの。年6回くらい
  - ・「情文音楽の夕べ」（仮称）の共催
    - 地域住民も参加するピアノ演奏会などを開催する。
  - ・中国江蘇省視覚障害者代表団の招へいと文化・スポーツ交流（共催）
    - 平成9年度は「愛・EYEフェスティバル」へ特別出演する。
    - 盲人卓球の交流会、日中交流について懇談する。

石川県視覚障害者情報文化センターは、石川県視覚障害者協会の方針のもとに、県内3600余人の視覚障害者の多様な要請に応えながら、来る21世紀社会を、超高度情報社会で、かつ超高齢社会と受けとめ、障害者も健常者同様に生きがいのある人生創造をめざし、自立し、障害を克服して地域社会に参加するために役立つさまざまな情報や知識、生活技術の習得の機会や場を提供したいと願っている。このことが本県が進める「ともに生きる石川障害者プラン」の達成に一役を担うものと確信している。

#### 利用時間

午前9時～午後10時

（図書館、受託印刷等は午後6時まで）

#### 休館日

毎週土曜日、旧盆、年末年始

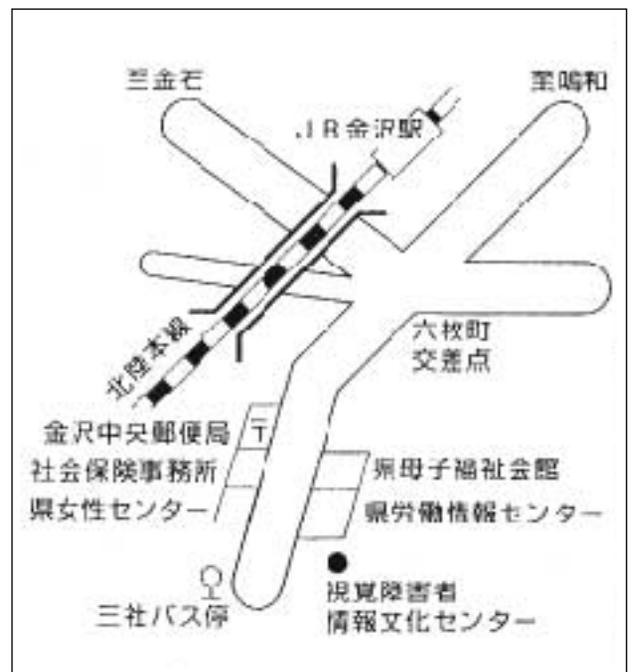
祝日（日曜日と重なる場合は翌日）

#### お問い合わせ

視覚障害者情報文化センター

金沢市芳斎1丁目15番26号

電話（076）222-8781



## 視覚障害者向けハイテク機器のコンサルタント、(株) アメディア

当社は、視覚障害者にとって快適な情報アクセス環境を常に目指しています。

### ①インターライン式両面同時印刷を実現した点字プリンタ「ET」

ETは、インターラインとインターポイントの2方式を1台で実現しました。

プラスチック製のタックペーパーにもきれいに印字できます。

日本サイズ、国際サイズ、少し大きめのカリフォルニア・サイン、非常に大きなジャンボ・プレイルの4種類の点字サイズをサポートしました。

日本点字サイズでは、8×10インチの標準用紙に1行32マスで表18行、裏17行の標準レイアウトで両面同時印刷ができます。

マルチコピー・モードにより、28,000バイト以内の文書を99部までの範囲内で複数部印刷することができます。

オプションの消音ケースを用いることにより、印字音や振動を軽減することができます。

本体価格：¥680,000

消音ケース価格：¥100,000

### ②自動点訳プログラム「EXTRA」

漢字かな混じりて書かれたMS-DOSの標準テキスト・ファイルを瞬時に点字に変換します。

BASE、BES、プレイルスターⅢ、コータクン、JETTYなどの各種の点字エディタ・ファイルに対応しているほか、点字プリンタに直接打ち出すこともできます。

価格：¥78,000

### ③ヨメール

簡単な操作で墨字印刷物を抑揚のある音声で読み上げることができます。

印刷物のテキスト・ファイル化もきわめて簡単な操作で行えます。

上記「EXTRA」との組み合わせにより、印刷物から点字ファイルへの変換行程をぐんと効率化します。

価格：¥188,000

### ④表作成も簡単にできるワープロ・ソフト「セシリア」

フィールドの考え方を導入することにより、全盲の視覚障害者でも簡単に表が作成できるようになりました。

加えて、合計と平均を表計算することができます。

見出しマークを採用することにより、見出しの頭へのジャンプが簡単に行えるようになりました。

価格：¥55,000

お問い合わせは

株式会社アメディア

〒169 東京都新宿区西早稲田 2-15-10

西早稲田関口ビル 3F

TEL: 03-5286-7511

FAX: 03-5286-2567